平成２年度

「郷土の音楽」の教材化による活動の楽しさの追及

～個が生きる学習指導と評価の観点から～

川崎市総合教育センター 音楽研究会議

川崎市総合教育センター研究紀要　4：119-134. 1991

「郷土の音楽」の教材化による活動の楽しさの追求

―個が生きる学習指導と評価の観点から―

音楽科研究会議

柴内正弘[1]　志村恵子[2]　横倉知恵[3]　矢野康子[4]（平成元年度）

森岡丈雄[5]（平成２年度）

要　　約

音楽では「楽しさ」が基盤になって学習が進められる。楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して個々の児童は豊かな感受性を身に付け，技能を獲得する。

本研究では「活動の楽しさの追求」を視野に置き，郷土芸能「祭り囃子」教材化の可能性について授業を通して検証した。

- 郷土芸能「祭り囃子」は他の日本音楽に比べ，児童の興味・関心が高い。
- 「個が生きる」という観点から一人一人の可能性を引き出し，達成感を味わわせる幅の広がりがある。
- 集団としての学習が可能で，創造的な活動の追求ができる。
- 音楽の授業だけでなく，学校生活全体に生かすことができる。

教材・教具については，興味・関心を持たせ意欲を引き出すＶＴＲや奏法の基礎を学習するためのＶＴＲ教材を製作し学習の効率を図った。

伝統音楽の教育的な意義は多くの人の認めるところである。しかし，他の分野に比べその実践例は極めて少ない。またビデオや音声テープ，楽譜など指導にあたっての教材も乏しい。全学年を見通した指導計画と教材の開発を進めていくことが課題である。

キーワード：音楽教育，個別学習，郷土音楽，評価計画，授業分析

目　次

はじめに

Ⅰ　主題設定の理由……120

Ⅱ　研究のねらい……120

Ⅲ　研究の内容と方法……121

1　研究の構想

2　郷土民俗芸能の教材化と指導計画

3　「個が生きる」学習指導と評価計画

4　指導の実際とその分析

5　授業の視点からの考察

Ⅳ　まとめと今後の課題……132

おわりに

主な参考文献・指導助言

[1]川崎市総合教育センター前指導主事　川崎市立浅田小学校教諭

[2]川崎市立東小田小学校教諭（研修員）　[3]同　虹ケ丘小学校前教諭（研修員）

[4]同　稲田中学校教諭（研修員）　[5]同　東生田小学校教諭（研修員）

はじめに

教育課程審議会（昭和62年12月）の答申によると，音楽科については次のような基本方針が示されている。「音楽に対する豊かな感性を培うことに重点を置き，児童生徒の個性的・創造的な学習活動が活発に行われるよう内容の改善を図る。……小学校においては，音楽性の基礎を培うとともに，児童に音楽活動の喜びを得させること。……」そして平成元年に新学習指導要領が告示され，以下の３つの観点から改善が図られた。

①音楽性の基礎や感性の育成，②個性的・創造的な学習活動の推進，③個性を生かす教育の充実

各々の教育現場や教育研究所では，これまでも豊かな音楽性や表現の技能などの育成をテーマにさまざまな実践を通した研究が行なわれ，成果をあげている。しかしながら，音楽教育の現状は必ずしも個々の児童の音楽性を伸ばし，活動の喜びを体験させるまでにいたらず，学年が進むにつれて学校音楽に背を向ける児童が多くなるという実態も報告されている。

本研究では活動の楽しさを視野に置きながら教材化の最も遅れている伝統音楽に視点をあて，それの教材としての可能性を授業を通して探ってきた。

Ⅰ　主題設定の理由

音楽の学習に興味・関心を示さない理由としては，学習活動や題材の設定に係わる教材曲の選択など，ややもすると教師主導になり個々の児童の自主的な活動を十分に保障していないことなどが考えられる。そこで指導の実際では，感性や表現の技能の違いなど多様な児童一人一人が意欲的に参加し，楽しさを体験させる指導過程の構想が大切である。

伝統音楽のもつ教育的な意義は多くの人の認めるところである。しかしこれを指導計画に位置づけて指導の効果をあげることについては西欧の音楽に比べてかなり遅れている。特に本市においては地域的な特性もあり，それの教材化の例は極めて少ない。このことから，「表現することの楽しさを」基盤にした。伝統音楽（郷土芸能）の教材化と指導計画の作成は，今日の教育課題の解決に応えるものである。そして個々の児童の意欲に満ちた活動は，日本音楽への関心を深め，更には地域の文化や伝統を大切にし，尊重しようとする豊かな人間性の育成につながっていくと考えて主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

本市に伝承されている民俗芸能の中から「祭り囃子」をとりあげて教材化する。そして以下の視点から教材としての可能性について検討する。

①児童の興味・関心を引き，学習が可能であるか。

②「個が生きる」という観点から，一人一人の可能性を引き出し達成感を味わわせることができる幅・広がりがあるか。

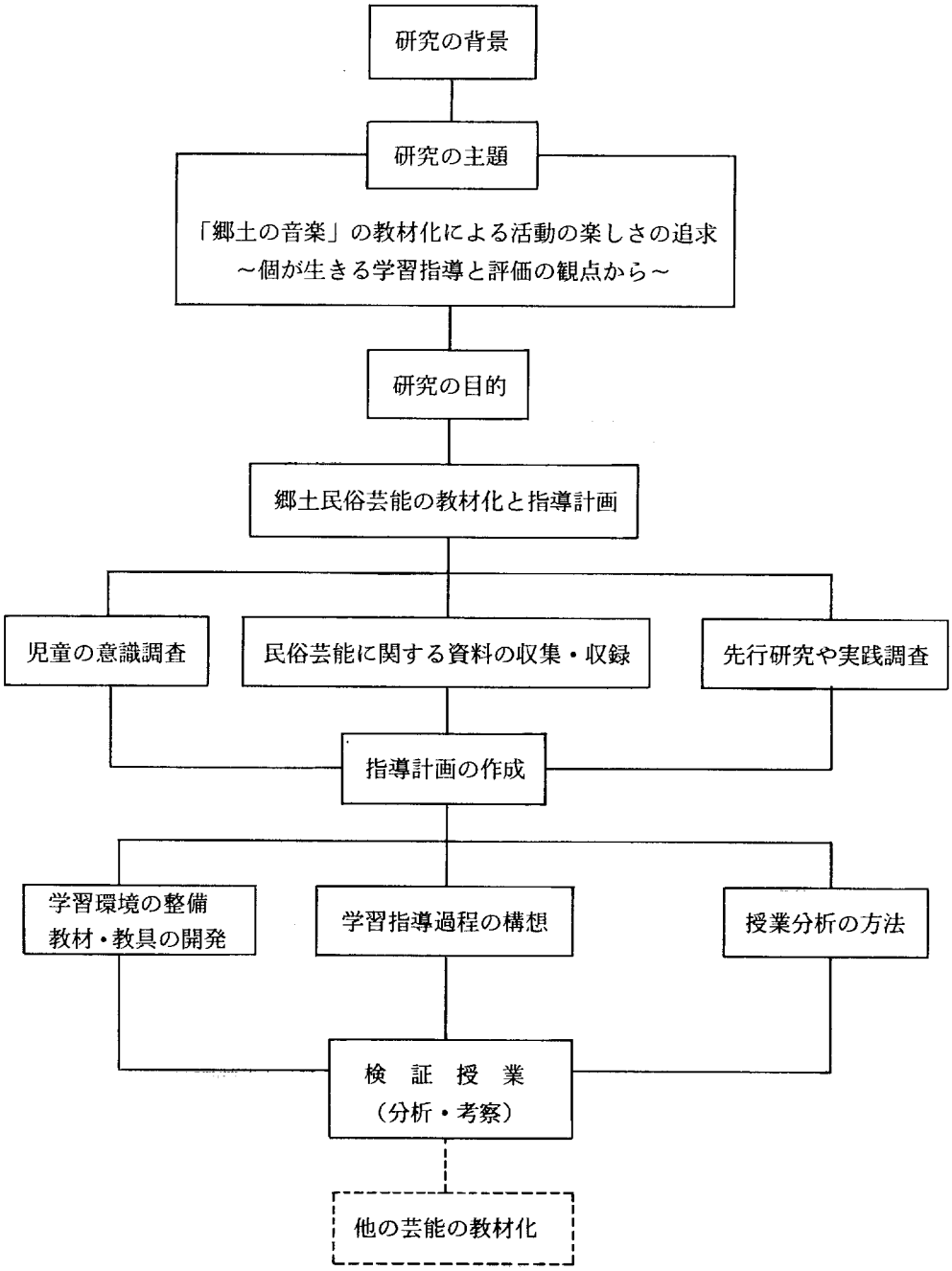
③集団として学習が可能で，追求するにふさわしい教材か。

④音楽の授業としてのみでなく，発展性があるか。

Ⅲ　研究の内容と方法

1. 研究の構想

研究の目的を達成するため，以下のように研究を構想し推進した。



2. 郷土民俗芸能の教材化と指導計画

(1) 郷土音楽に関する児童の意識

日常の音楽学習に対する児童の意識を把握し，指導計画作成の資料とするため，以下の内容について調査を行なった。

①調査の内容

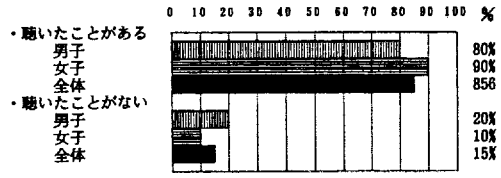
- 歌唱，器楽，鑑賞などの学習内容についての好み
- やってみたい，もっと上手になりたいと思う楽器
- 和楽器を演奏したことの経験
- お囃子の音楽を自分で演奏すること
- 表現することに自信のある楽器
- 見たり聞いたりした事のある和楽器
- お囃子の音楽の体験（聞いたこと）

②調査の方法

質問紙法により，4年生100名，5年生106名，6年生109名，計315名

③調査の結果と考察（紙面の都合により一部のみ抜粋）

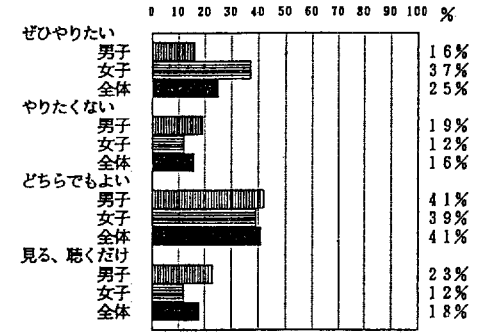
＜お囃子の音楽の体験＞



＜考察＞

男子80%，女子90%が聴いたことがあると回答している。特に検証授業の予定校では，高い割合を示している。

＜お囃子の音楽を自分で演奏すること＞



＜考察＞

女子に比べ，男子の表現意欲が低くなっている。「ぜひやりたい」と積極的に回答した男子は16%と，「やりたくない」の19%を下回っている。これは，音楽科の一般的傾向であろう。

また，「どちらでもよい」「見る聴くだけ」と自己表現に消極的な児童をあわせると，全体の50%近くにのぼる。

(2) 郷土音楽「祭り囃子」の教材化の意味

「祭り囃子の教材化」の価値として，以下のようなことが考えられる。

- 本市の無形文化財保存団体（50団体）の中で最も多く，また全市に万遍なく存在している。特に地域行事などで多くの児童が無意識のうちに体験している。（意識調査より）
  このことから，児童にとって最も身近な，なじみやすい郷土音楽であろう。
- テンポやリズムが軽快で，児童の心情に合うだろう。
- 楽器の編成が「大太鼓」「締め太鼓」「鐘」「横笛」の4種類であり，練習用打楽器の準備も比較的容易であろう。また旋律楽器の横笛は，リコーダーで代替することができるだろう。
- 和楽器の演奏については，西欧の楽器に見られるような技能差が少なく，殆んどの児童が同じレベルからスタートできるだろう。

・「お囃子」の創作では，前述したとおり技能の個人差が少ないことから，個々の児童の発想が表現活動にいかされやすく，また楽譜にとらわれずに創意工夫のあるアンサンブル学習に発展させることが容易であろう。そして一人ひとりがこの活動を通して，表現することの楽しさを体験できるであろう。

3. 「個が生きる」学習指導計画と評価計画

(1) 指導過程を構想する基本的な考え

音楽の学習では，一人ひとりに「自己表現できる」ことの楽しさや喜びを通して，「できた」という達成感を持たせることが大切である。そこで「個が生きる」ための授業像，指導過程構想の柱として，以下の４つの項目を設定した。

Ⅰの柱　おもしろそう・やってみたいと感じる。
　　（興味・関心・意欲）

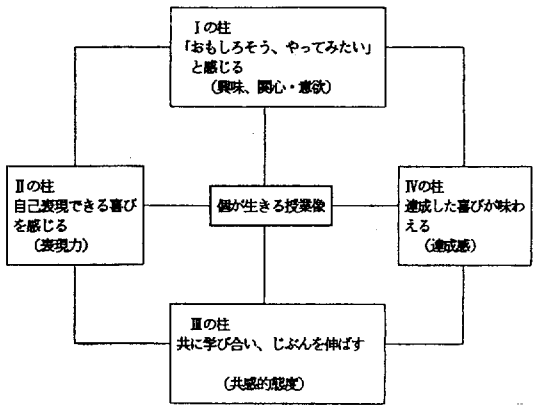
Ⅱの柱　自己表現できる喜びを感じる。
　　（表現力）

Ⅲの柱　共に学びあいながら自分を伸ばす。
　　（共感的態度）

Ⅳの柱　達成したことの喜びが味わえる。
　　（達成感）

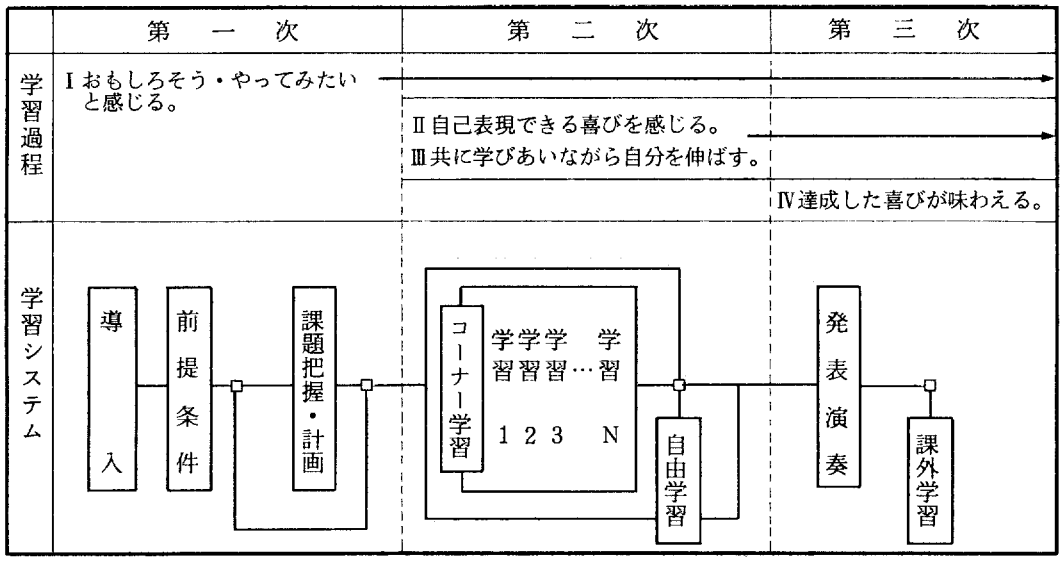
また，これら４つの柱は個々に独立しているのではなく，右図のようにそれぞれが有機的に関連しあって，活動が進められる。

＜個が生きる授業像＞



(2) 学習指導過程の設計

学習指導過程については，「個の特性に応じる学習指導法の研究」（川崎市総合教育センター教育方法研究会議　昭和63年度）に於ける適性学習システムをモデルとしている。



(3) システムをささえる学習環境

①活動への意欲を持たせる教材・教具の開発

学習の導入では，一人ひとりの児童の興味・関心を喚起し，活動の意欲を持たせることが大切である。この意欲は表現技能の高まりとともに継続され，やがて「できた」という達成感の獲得につながっていく。このような学習を保障し，さらに学習の多様化・効率化を図る上で，補助的な教材や教具の持つ役割は大きい。今回は検証授業に向けて，以下のものを作製した。

ア．ＶＴＲ教材

a　祭りばやし（川崎区日枝神社）―興味・関心・意欲を引き出すことをねらいとしている。

b　祭りばやし（和楽器の奏法）　―基本的な技能の習得をねらいとしている。

イ．練習用打楽器

a　自動車のタイヤ……大太鼓に代用した。思いきりたたいてもこわれず，さほど大きな音にもならない。手首の使い方やバチさばきにも，よい練習となる。

b　しなベニヤ板……締め太鼓に代用した。持ち運びに便利で手軽に練習できる，強く打っても割れないなどの利点がある。（20cm×20cm×９㎜）

c　空き缶……鐘に代用した。曲がりやすいが交換がきく。音量も適当である。

②活動の工夫

先年度の研究では，児童の多様な活動を同一時間で効果的に行うため，オープンスペースなどを活用している。この題材の指導でも，一人ひとりの児童ができるだけ他人の音に気をとられず，集中して学習にとりくめるよう，教室利用（配置）を工夫した。

(4) 評価計画

本教材の展開では，「個が生きる授業像」の４つの柱を検証するため，以下のように①～⑮の指標を設定し，授業分析の資料とした。

Ⅰの柱（興味・関心・意欲）	①ＶＴＲ教材に興味・関心を示す。	おもしろそう・やってみたいと感じる。
	②範奏に興味・関心を示す。	
	③教師の話に注目する。	
	④進んで試奏に参加する。	
Ⅱの柱（表現力）	⑤コーナーを効果的に活用する。	自己表現の喜びを感じる。
	⑥進んで発表演奏する。	
	⑦友だちの演奏に注目する。	
	⑧太鼓等の基本的奏法に慣れる。	
	⑨お囃子の旋律がふける。	
	⑩口唱歌による表現ができる。	
Ⅲの柱（共感的態度）	⑪オリジナルな表現を工夫する。	共に学びあいながら，自分を伸ばす。
	⑫協力して話し合い，練習に参加する。	
Ⅳの柱（達成感）	⑬自分のパートを正しく表現する。	達成した喜びが味わえる。
	⑭楽器のかけあいを考えて表現する。	
	⑮お囃子の雰囲気を工夫して表現する。	

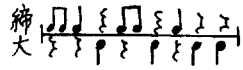
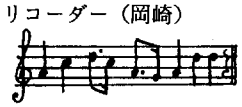
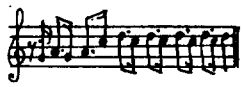
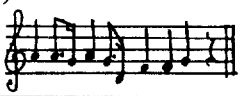
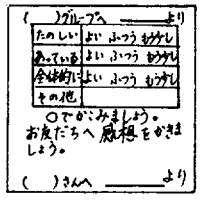
4. 指導の実際とその分析

(1) 祭り囃子の指導計画

題材の実践にあたり，次のような指導計画を作成した。

日時　平成２年２月下旬～３月上旬
会場　川崎市立東小田小学校
学年　４年

① 題　　材　「お祭りの音楽を楽しもう」
② 題材目標　・大太鼓や締太鼓などの表現を通して，郷土の音楽に親しませる。
　　・大太鼓や締太鼓などの演奏により和楽器に興味をもたせる。
　　・「祭り囃子」の工夫により音楽を作って表現することの楽しさを味わわせる。
③ 教　　材　川崎区小田地区に伝わる祭り囃子より　「鎌倉」，「岡崎」の一部
④ 指導計画　（６時間扱い……45×６）

学習過程		主な指導内容	教材の提示
第一次 45×2	Ⅰおもしろそう・やってみたいと感じる	1. 「祭り囃子」のＶＴＲを鑑賞させ題材への興味・関心を持たせる。 ・使われている楽器を発表させる。 2. お囃子に使われている本物の楽器を見せ，その音色を聴かせる。 3. 和楽器を自由に打たせる。 ・コーナーの学習で好きなものを自由に打たせる。 4. 太鼓の奏法を理解させる。 ・ＶＴＲ，教師の範奏を見せ，良い響きやバチの持ち方に気づかせる。 ・打つ場所によって音色に違いのあることに気付かせる。	・川崎区の「祭り囃子」のＶＴＲ（自作） ・大太鼓，締太鼓，横笛，鐘 ・練習用楽器 大太鼓（自動車のタイヤ） 締太鼓（ベニヤ板） 鐘　（空缶）
第二次 45×3	Ⅱ自己表現できる喜びを感じさせる Ⅲ共に学び合い自分を伸ばす	1. 「お囃子」のリズムを練習する。 ・右のリズムを大太鼓や締太鼓で打たせる。 2. 「お囃子」の旋律をリコーダーで演奏させる。 ・太鼓と合わせアンサンブルを楽しませる。 3. グループ毎に「お囃子」を表現させる。 ・グループは児童の自主性を尊重して編成させる。 ・グループ毎に笛の旋律を選ばせる。 4. 太鼓のリズムを工夫する。 ・第二次の前半で学習したリズムを参考にさせる。 5. 旋律（リコーダー）と打楽器でアンサンブルをさせる。	・口唱歌表 ・大太鼓，締太鼓，鐘  ・リコーダー（岡崎）  ・提示する旋律 1）  2） 
第三次 45×1	Ⅳ達成した喜びが味わえる	1. 自分たちの「お囃子」を発表し鑑賞させる。 ・学級音楽会の形式をとらせ，できるだけ児童に運営させる。 ・和楽器の音色の特徴を味わって聴くようにさせる。	・感想カード 

⑤ 指導細案　＜学習指導の具体的な展開＞

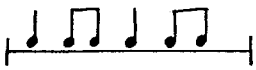
第一次の指導〔45分×2〕

◎目標

・「祭り囃子」の音楽に親しみ，その特徴を理解する。

・和太鼓の奏法に慣れる。

◎展開

指導内容	学習活動	予想される児童の反応	個への配慮・留意点
・興味・関心・意欲の喚起	・ＶＴＲで「お囃子」の音楽を視聴する。 ・先生の打つ音を聴いて，楽器の名称を覚えたり音色の違いに気づく。	＋身体で反応しながら聴く。 －興味を示さず，画面から注意がそれる。 ＋さわりたい，音を出したい。 －関心を示さない。	・視聴の後，児童の地域に伝わっている「お囃子」であることを教える。 評価 柱－Ⅰ　①，②
・本時めあて	・本時のめあてを知る。	＋何について学習するかわかる。 －めあてがわからない。	評価 柱－Ⅰ　③
・和楽器の試奏	・興味・関心のある楽器を自由に打つ。 ※大太鼓　(1) ※締太鼓　(2) ※鐘　(5)	＋リズムを意識して打つ。 ＋わりあい良い音色で演奏する。 －面白半分に打つ。 －一つのコーナーに集中し，楽器を奪い合う。 －進んで表現しようとしない。	・バチ以外の物で打たないなど最小限の注意にとどめる。 ・どの児童も楽器にさわれるように配慮する。 評価 柱－Ⅰ　④
・和楽器奏法の基本	・ＶＴＲや教師の範奏を聴く。	＋真剣な表情で見たり聴いたりしている。 ０時々注意がそれる。 －注意がそれ，落ち着きがない。	・良い音色に気づかせ，理由を考えさせる。 ※バチの持ち方　※持つ場所 ※演奏する時の姿勢 評価 柱－Ⅰ　①，②，③
・和楽器によるリズム奏	・  のリズムを表現する。	＋バチ（右，左）の使い方がわかり，リズムも正確に表現する。 ０バチの使い方やリズムが部分的に不安だが，大体できる。 －できない。	・バチの持ち方や使い方など個別に指導する。 評価 柱－Ⅱ　⑧
・和太鼓の奏法	・練習したい楽器のコーナーを選び，自由に練習する。 1）大太鼓コーナー 2）締太鼓コーナー 3）鐘コーナー 4）テレビコーナー 5）アンサンブルコーナー	＋奏法の基本が大体わかり，リズムに乗って表現している。 ０奏法の基本，リズムなど一部不安定だが意欲的に表現している。 －楽器を打つことだけに意識がむき，基本が身に付かない。 －いろいろなコーナーを歩き回る。	・楽器のコーナーやＶＴＲなどの活用は自由にさせる。 評価 柱－Ⅱ　⑤，⑧
・発表演奏	・練習の成果を発表し奏法の基本を確認する。	＋積極的に挙手して発表する。 ０指名されて発表する。 －指名されても発表できない。	・バチの持ち方や打つ場所などに注目させる。 ・本物の楽器でできるだけ大勢の児童に表現させる。 評価 柱－Ⅱ　⑥，⑦，⑧

第二次の指導〔45分×3〕

◎目標

・自分たちの工夫した「祭り囃子」を協力して表現する。

・大太鼓や締太鼓の奏法に一層慣れる。

・笛や鐘を入れて楽しくアンサンブルをする。

◎展開

指導内容	学習活動	予想される児童の反応	個への配慮・留意点
・「お囃子」のリズム	・「岡崎」をＶＴＲで視聴する。	＋ＶＴＲに集中する。 －注意が散漫になり，興味を示さない。	
・本時目標	・本時のめあてを知る。	＋何をどのように学習するかわかる。 －私語などが目立つ。	・挙手により，めあてを確認する。
・口唱歌による			

(2) 授業の記録とその分析

今回の授業研究でのねらいは，題材の展開により児童が学習の喜びを体験できること，また，教材としての可能性などについて授業を通して検証することであった。

そこで，授業の実際では，次のような視点から記録し，それをもとに分析した。

授業の記録と分析のための視点

1. 学習指導過程……児童の実態，「個が生きる授業像」４つの柱
2. 指 導 形 態……一斉学習，グループ学習，個別学習
3. 指 導 技 術……発問，資料，表情など

また，記録は以下の方法で行った。

①ＶＴＲなど視聴覚機器によって教師の発問や表情及び児童の活動を総合的に記録する。

②タイプの違う児童（抽出）がこの題材の学習にどのようにかかわり，どう変容していくか，授業協力者により観察記録する。また，児童に学習前や学習後にアンケートを行い，分析のための資料にする。

ア．児童の抽出

学級全児童を記録し，その変容を記録していくことが望ましいが，授業協力者の人数から，技能面や情意面に特徴のある児童，男子３名，女子３名の計６名を抽出することにした。

「祭り囃子」を表現することと２学期の評定

祭り囃子の表現 ＼	1	2	3	4	5
ぜひ表現してみたい		B1 B15 B2 B12	B4 B13 B6 B14 B11	B10	G7 G14
よいどちらでも		G3	G4 B3	G1 G11 G12	
見ることならよい		G5	G9	G6	
表現しないでよい		B7	G10 B5 B9	G2	G13

Ｂは男子，Ｇは女子，・は抽出児童

左の表は「祭り囃子」を表現することへの意識調査と２学期の評定に関する全児童の分布である。評定上位であり「ぜひ表現してみたい」と，この題材に意欲的なＢ10（男子），Ｇ７（女子），評定が中位で活動にやや消極的な姿勢を示すＢ３，Ｇ４を抽出した。また，下位の児童ではＢ７及びＧ５を観察・記録することにした。

イ．検証授業での記録

授業協力者は次のような分担をもとに児童の活動状況を記録した。

- 授業者の記録……１名
- 学習の様子全般をＶＴＲに収録……１名
- 学習の様子全般の写真撮影……１名
- 学習コーナー活用の記録……１名
- 抽出児童の観察・記録……６名
- 授業全般の観察……（各コーナー２名）

◦抽出児童用の記録用紙

記録児童　児童Ｂ７　　記録者（○○○○）

指導内容	児童の活動	児童の反応・行動	指標に基づく評価
・興味・関心・意欲の喚起	・「祭り囃子」を視聴する。	時々よそ見をするが，聞いている。明るいメロディーになると，隣の児童と笑い合っていた。	Ⅰ－① ・ＶＴＲ教材に興味・関心を示す。 Ａ　Ｂ　Ｃ

◦授業者用の記録用紙

教師の発言・児童へのかかわり	児童の反応・行動	備　考
※発問，指示，助言や資料の提示など		

◦コーナー学習の記録用紙

〔○○○〕コーナー男子　　記録者（　　）

分	活動の時間 1	2	3	4	5	6	7	8	25
児童名									
児童名									

☆コーナー学習の記録のまとめ

各コーナーでの教師の指導	全児童のコーナー学習の様子
・大太鼓 タイヤの数を増やし，多くの児童が叩けるようにする。 バチの持ち方や手首の使い方を指導。 ・締太鼓 練習の進め方を指示。掲示用の楽譜が見えるように指導。 ・鐘 楽器の持ち方を具体的に指導。	Ｂ３・大太鼓－鐘－テレビ－鐘－大太鼓－テレビ Ｂ１と①，②のリズムを練習，リズムは正確だがバチが開きぎみ。鐘は興味本位，テレビコーナーでは一番はしゃいでいる。その後，鐘では，先生と合わせる。大太鼓ではＢ９と①，②，③のリズムを練習二度目のテレビは合わせながら遊んでいる。 Ｂ７・鐘－アンサンブル－テレビ－鐘－テレビ 本物のかねをもってうろうろする。 アンサンブルコーナーでは鐘を鳴らしながら友だちの演奏を見てまわる。アンサンブルには発展しない。 テレビでも何もしない。 Ｇ７・テレビ－大太鼓－締太鼓－アンサンブル

☆左の観察・記録の結果を整理した記録用紙

音楽科　検証授業記録 ― 4年生 ― 第1，2時の一部掲載

学習の流れ（教師の働きかけ）	抽出児童の反応・行動 Ｇ７	Ｇ…女子，Ｂ…男子 Ｂ７
1）「祭り囃子」を表現すること	・ぜひ表現してみたい	・表現したくない
2）2学期の評定	5	2
3）性格・行動などの所見	全てに意欲的，熱心に取り組む，女子の中ではリーダー的存在である。	興味・関心をもつと熱心にやるが，途中でつまずくとすぐなげだす。音楽には興味を示さない。
1．興味・関心，意欲の喚起 Ｔ：ビデオを見ましょう。モアーズの前です。 （視聴終了） Ｔ：今見たビデオでどんな楽器があったかわかりますか。 （略） Ｔ：ひもで締めてあるでしょう。だから締太鼓といいます。これを叩いてみたい人。	・集中して見ている。画面に「祭り囃子」の表示がでたとたん反応する。	・時々よそ見をするが，聞いている。明るいメロディーになると隣の児童と笑い合う。画面の途中で注意がそれる。
Ｃ：（3分の2挙手）	・「叩いてみたい」に挙手。	
Ｔ：どっちでもいい人。		・「どっちでもよい」に挙手。
Ｃ：（3分の1挙手）		
Ｔ：さっきのは，小田のお囃子です。聞いたことがありますか。この楽器は日本に古くから伝わっている和太鼓という楽器です。今日はこの打ち方を勉強します。そして自分たちのお囃子を作りましょう。		
※学習の計画表掲示 評価 授業像Ⅰ ①，②	○ Ａ　Ｂ　Ｃ	○ Ａ　Ｂ　Ｃ

ウ．分析の実際と考察

この授業の分析では，研究主題にせまる“４つの柱”を検証する15の指標について基準表をもとに記録やＶＴＲを通して検討し，Ａ，Ｂ，Ｃの３段階に表示した。

◦評価のための基準表

授業像を検証するための指標	評　価　の　基　準		
①ＶＴＲ教材に興味・関心を示す。	視線がテレビに向いている。楽しそうに見ている。身体が音楽に反応している。	A　B　C	集中できず，注意散漫になっている。
②範奏に興味・関心を示す。	視線が範奏に向いている。楽しそうに聴いている。身体が音楽に反応している。	A　B　C	集中できず，注意散漫になっている。
（略）			
⑤自分の課題を意識しコーナーを効果的に活用する。	コーナーをうまく利用し，基本となる技能を身につけてきている。	A　B　C	意味もなく歩き回り，基本の技能が身につかない。

◦抽出児童６名の活動の様子を授業の流れにそってまとめた。

下の表は、抽出児童６名の活動の様子を授業の流れにそってまとめ、活動の状況については、紙面の都合上Ｂ７（下位児童）およびＧ７（上位児童）の２例を示した。

第一次　（第１時・第２時）

指導内容	授業像（柱）	授業像に基づく指標	男子 評価A	男子 評価B	男子 評価C	女子 評価A	女子 評価B	女子 評価C	Ｂ７の活動の記録	Ｇ７の活動の記録
		「祭り囃子」を表現すること（学習前のアンケートから）	B10	B 3	B 7	G 7	G4 G5		・事前のアンケートでは「やりたくない」に回答している。	・「ぜひやってみたい」と活動に積極的。
興味・関心意欲の喚起（１０分）	Ⅰ	①ＶＴＲ教材に興味・関心を示す。 ②範奏による興味・関心を示す。 ③教師の話に注目する。（一斉）	B3	B7 B10		G 7	G4 G5		・時々よそ見をするが、聞いている。明るいメロデーになると隣の児童と笑い合う。画面の途中で注意がそれる。ＶＴＲ教材に少し興味を持ったようだ。教師の説明には集中しない。	・集中して見ている。画面に小田幹子の表示がでたとたん反応する。
和楽器の試奏（２０分）		④進んで試奏に参加する（個別）	B3B7B10			G5	G4 G7		・締太鼓を１回たたいた後、鐘をうつ。しばらくして大太鼓に興味を示す。	・大太鼓にさわった後、大太鼓にいくか順番が回ってこないのであきらめる。鐘をうつ。
和楽器奏法の基本とリズム奏（４５分）	Ⅱ	⑤太鼓の基本的な慣れる。（一斉）	B10	B3 B7		G5G4G7			・ＶＴＲ（和楽器奏法）は熱心に見ているが、基本リズムの表現ではテンポが早くなるとついていけない。	・頭をかすかに動かし、リズムをとって画面をみている。基本リズムの一斉学習では、正確に表現する。
		⑤自分の課題を意識しコーナーを効果的に活用する。（個別） ⑥太鼓の基本的奏法に慣れる。（個別）	B10	B3	B7	G5 G7	G4		・課題が意識されず各コーナーをうろうろする。学習が成立しない。	・どのコーナーでも意欲的に練する。自分の課題が分かり、効果的に活用している。
	Ⅲ	⑫協力して話し合いや練習に参加する。	B10	B3	B7	G5G7G4			・友だちの練習をみているだけでアンサンブルにならない。	・表現技能の同じレベルの児童工夫しながらアンサンブルをする。
発表演奏（１５分）	Ⅳ	⑬自分のパートを正しく表現する。 ⑭楽器のかけあいを考えて表現する。	B10 B3		B7	G5G7G4			・静かに座っているが、やる気は見られない。まわりに「やっていない」と言われ大太鼓に行くが「わかんねー」と言ってやめる。	・２回発表する。意欲的。
		「活動の楽しさ」について（学習後のアンケート）	B10 B3		B7	G5G7G4			・「あまり楽しくなかった」と答える。その理由は大太鼓がやりたかった。コーナー学習でのつまずき、そのまま終いたようだ。	・「楽しかった」と答えている

5. 授業の視点からの考察

(1) 授業像Ⅰ（指標①～④）について"「おもしろそう，やってみたい」と感じる"

・教材・教具

「祭り囃子」を表現することに興味・関心を持たせる手立てとして，ＶＴＲを活用している。児童が画面に集中して視聴できたのは，同じ地域のお囃子であることが大きな要因になっている。ＶＴＲ教材は児童の興味・関心を喚起するために極めて効果的であった。

・学習形態

楽器の試奏の場面で，個別学習の形態を採り入れている。「楽器＝叩きたい」と思うのが児童の自然な動きであろう。このような児童の心情を満足させる学習になっている。また，個の活動を十分に保証しようとする授業者の意図が生きる形態である。指標④の試奏への参加の様子を見ると，個別の学習形態を採り入れたことが下位の児童を引きつけていることがわかる。

・教師の働きかけ（発言・表情・資料など）

児童に対する表情は明るく，緊張しがちな教室の空気を和らげようとする配慮が感じられる。しかし，ＶＴＲ視聴で持たせた児童の関心を，それに続く範奏・教師の話の段階には持続させ得なかった，と言える。また，楽器の試奏の場面では積極的な児童とそうでない児童との差があった。適切な助言が必要である。

(2) 授業像Ⅱ（指標⑤～⑩）について"自己表現できる喜びを感じる"

・教材・教具

授業像Ⅰと同じように奏法の基本に関するＶＴＲの視聴を学習の動機づけにしている。教師の指示も適切であり，どの児童も熱心に視聴している。このＶＴＲのモデルは同年齢の児童であることが関係しているかもしれない。また，基本の練習やコーナーの学習でもＶＴＲは効果を上げている。大太鼓・締太鼓の代用楽器については，さらに工夫・改善の必要がある。その理由はベニヤ板による騒音，タイヤやベニヤ板では打つ姿勢が悪くなることである。多様な活動を保証し，基本的な奏法を習得させるための各コーナーの教材内容については検討すべき課題が多い。

・学習形態

和楽器の奏法に慣れること，基本リズムの表現ができることをねらいに，第一次では一斉学習と個別学習，第二次では一斉学習とグループ学習と，さまざまな形態での活動が行われている。第一次のコーナー学習では，コーナーを上手に活用し基本的な技能を習得した児童もいたが，学習の仕方を理解できず，興味本位に各コーナーを見学していた児童もいた。第二次では一斉学習により技能の習得をねらっていたが，一斉学習についていけない児童もいた。一人一人が自由に練習する場面の設定も大切であろう。発表演奏の形態は児童が自由に作ったグループを基本として行われたが，協力したり教え合ったりするグループ活動を促進する上で有効であった。

・教師の働きかけ（発言・表情・資料など）

コーナー学習において学習が成立していないように観察される児童もいた。教師も１つのコーナーとしての役割を持っている。コーナー学習が児童にとっての初めての活動経験であることを考えると，より細やかな関わり方が望まれる。教師がどういう役割を果していくかは計画的に考えていく必要がある。

資料では，基本リズム習得用や，各コーナーでの学習の順序を示す拡大譜等が準備され，計画的である。特に口唱歌練習用の楽譜は視覚的にもよく工夫され，創作の過程で活用しているグループがあり，学習の効果を上げている。

(3) 授業像Ⅲ（指標⑪～⑫）について"共に学び合いながら自分を伸ばす"

・学習形態

児童が自主的に編成したグループでの活動である。したがって，その構成もまちまちで男女別に人数も３人から６人である。指標⑪の「オリジナルな表現の工夫」では仲良しグループのためか，子ども同志の関わりが活発に行われている。また，グループ名も，○○囃子など自分たちのお囃子であるという意識が感じられ，このようなグループ編成の効果が出ている。創作の方法はカードを用いて記譜したり，記譜を用いずに即興的に表現するなど楽しい雰囲気の中で多様な活動が行われている。

・教師の働きかけ（発言・表情・資料など）

各グループをまんべんなく巡り，創作の方法について具体的に指導を行い，特に活動に集中できなくなっている児童への助言も適切である。そのための資料の準備が計画的で児童の実態に合っている。

(4) 授業像Ⅳ（指標⑬～⑮）について"達成した喜びが味わえる"

・教材・教具

大太鼓・締太鼓・鐘の代用楽器でなく本物の楽器を用いている。

・学習形態

第一次では，楽器別に希望者を募り，アンサンブルをさせている。進んで表現しようとする意欲を育てる授業者の意図が感じられる。また児童が最も自信のある楽器で表現できるので，達成感も味わわせることができる形態である。第二次でも引き続いて自主的に編成したグループである。特に男子の表現への自信が発表に表れている。

［考察の根拠とした資料］

・授業者の行動の記録（カセットテープレコーダー）
・授業者および児童の学習の様子の記録（ＶＴＲ，写真）
・抽出児童の観察記録
・学習コーナー活用の記録
・研究協議の記録

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題

本研究では，郷土芸能「祭り囃子」を教材化し，活動の楽しさを体験させ，創造的な表現に発展させる学習指導過程を構成した。そして，授業を通して検証し，以下のような結果を得た。

1. 祭り囃子の教材化については，次の4点から考えてみることにした。

(1) 子どもの興味・関心を引き，学習可能なものであるかどうか。

① 子どもが和楽器を好きになった。

② お囃子が身近でとりつきやすいので，日本音楽の導入としては効果が大きかった。

③ 日常生活に，日本音楽や郷土音楽がとり入れられることが少なくなってきている現在，いかにそれらに目を向けさせ，関心を持続させていくかを今後考えていかなければならない。

(2) 「個が生きる」という観点から，個の可能性を引き出し，達成感を味わわせるような幅・広がりを持ったものだったか。

① ほとんどの児童が和楽器に初めて接するため，それまでの音楽の知識や技能のレベルにさほど影響されず，達成感を味わわせることができた。

② 祭り囃子づくりを通して，個々の児童の発想を生かし，創意工夫のある活動に発展させることができた。

③ 表現活動に消極的な児童がこの学習では積極的だった。

(3) 集団として学習することが可能か。集団として追究するにふさわしい教材か。

① 全員が楽しかったという感想を持ち，自己課題を持つことができた。

② 今回の検証授業は4年生で行ったが，小学校低学年～高学年，そして中学生への関連を図っていけば，より効果が上がると考えられる。

(4) 音楽の授業としてのみでなく，発展性のあるものだったか。

① 校内の先生方にも理解が深まった。その結果，和楽器に積極的に取り組み，応用するようにもなった。例えば，運動会や学芸会などの行事に生かすことができた。

② 祭り囃子を使う行事に，地域の人々の参加もみられるようになった。

2. 教材・教具の開発について

この研究をすすめるにあたって，教材開発に相当の時間を費やした。川崎市内に分布する伝統芸能の調査，教材として用いることの可能性のある祭り囃子の選択，授業に向けての教材化などであった。本研究の検証授業では，次のような教材教具を用い，児童の学習を助けた。

(1) ＶＴＲ……お祭りの場面・和楽器の奏法を見せた。

(2) タイヤ・練習板・あき缶…大太鼓・締太鼓・鐘の代用楽器として。

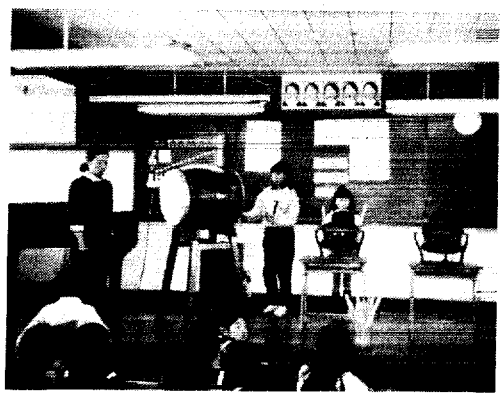
(3) 口唱歌カード……リズム創作用として。

教材・教具の開発によっていろいろな成果もあったが，今後の課題も残っている。今回，検証授業で扱った小田のお囃子ばかりでなく，郷土に伝わる他の音楽を使っての授業もできるよう，もっと多くの教材を授業向けに開発できれば，と考える。現在，ビデオテープや音声テープ，楽譜など，指導にあたっての教材もまだ乏しく，教材・教具の整備から指導者が奔走しなくてはならない。豊富な教材の開発が待たれる。

3. 子どもの主体性を重視した学習活動について

この学習では一人一人が「祭り囃子」の表現活動を通して郷土の音楽に親しみながら「太鼓」を中心としていくつかの和楽器の奏法の基本を体得することが大きなねらいである。このねらいを実現するために，昨年度研究の適性学習システムをモデルとして，学習活動を展開した。学習の過程で，児童の主体的学習を促すコーナーや，児童の発想や創意工夫を生かす自由学習をとり入れ，今までの教師主導型の指導からぬけ出そうとした。児童が自分で課題を見つけ，解決しようとする姿勢が育ちつつある。

〔授業風景〕



おわりに

テーマを定め，祭り囃子の教材化，そのことにとりかかるまで時間を要した。そして，研究の方向を手探りしつつ，お囃子の練習場所に弟子入りしたところから，このテーマへの道のりが始まった。

今後の課題としては今までに述べたことのほかにいくつかある。

評価にはいろいろな方法が考えられるが，今回試みた“柱”“指標”をもとにさらに具体的な手立てを検討していかなくてはならない。授業者が手軽に評価を行えるためには，指導項目や分析の観点を厳密に検討する必要がある。

指導者としても，日本音楽や郷土の音楽についてはなじみが薄いことから，積極的に教材として取り上げない傾向がある。また，いざ指導しようとしても，知識や技術が伴わないのも現状である。指導者自身が研修を積む必要がある。

この研究を進めていく過程で，我々自身，検証していくことの大切さ，カリキュラムの正当性を追究していくことの大切さを身をもって知った。

伝統音楽の教材化，そしてその指導と評価についてはまだまだ研究の進められていない分野であるが，本研究がその一助となれば幸いである。

なお，本研究をすすめるにあたって，多くの先生方にご指導・ご助言をいただいたことに深く感謝いたします。また，授業研究の場を提供していただきました川崎市立東小田小学校の先生方に，厚くお礼申し上げます。

・参考文献

		（発行所）	（発行年）
河野　重男	『自己教育力を育てる』	ぎょうせい	1988 年
北尾　倫彦	『自己教育力を育てる先生』	図書文化	1986 年
渋谷　憲一	『子どもを伸ばす評価』	ぎょうせい	1987 年
文　部　省	『日本の音楽の指導』	東山書房	1980 年

・指導助言者

横浜国立大学教育学部助教授	藤　岡　完　治
川崎市立商業高等学校長	村　井　　守
川崎市小学校音楽教育研究会長	黒　木　幸　伸
神奈川県公立中学校教育研究会音楽部会長	小　作　順　一
川崎市公立中学校教育研究会音楽部会長	加　藤　崇　禮
川崎市総合教育センター第二研究室長	橋　本　貞　和
川崎市総合教育センター指導主事	石　原　由美子